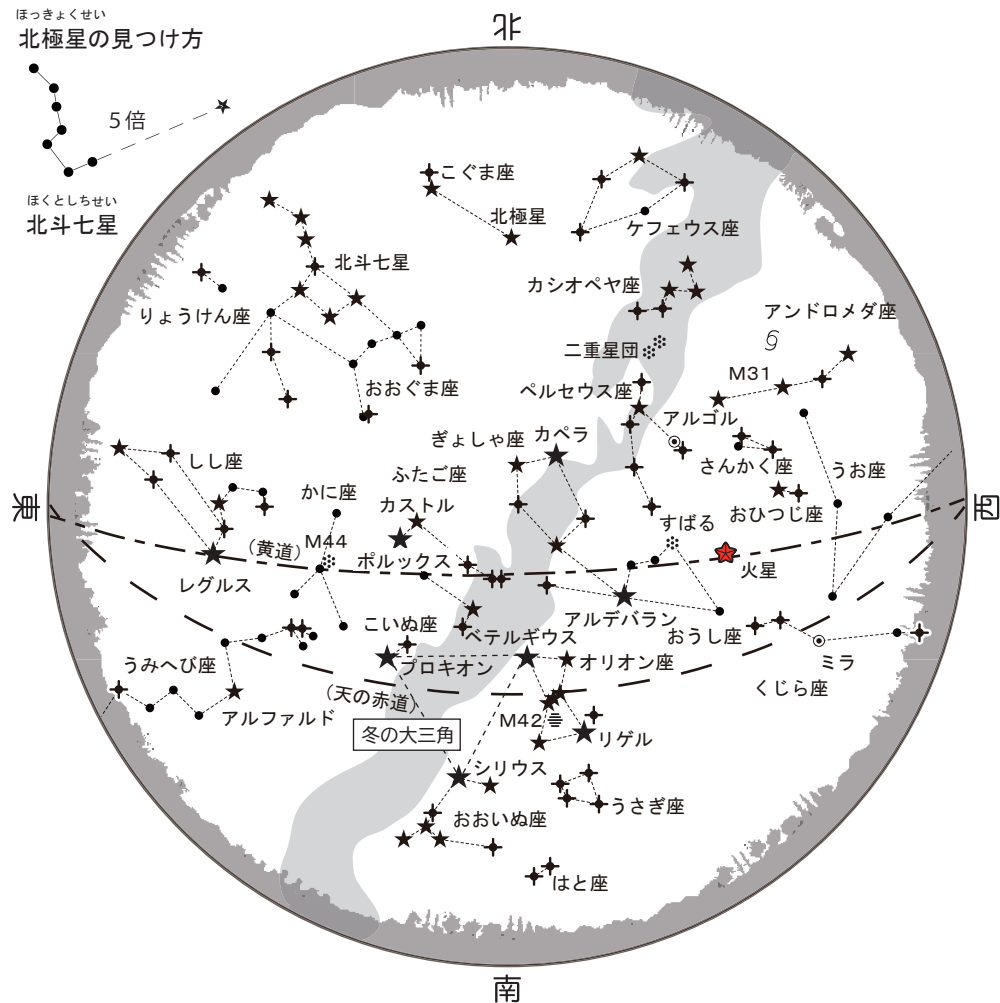


富山でみえる 2021 年2月の星空

自分の見たい方角を下にして、その方角の空を見てみよう。



- ★ 1等星と、より明るい星
- ★ 2等星
- ✦ 3等星
- 4等星と、より暗い星
- ◎ 変光星
- ※ 星団
- ☄ 星雲
- ♁ 銀河

この星空が見えるのは

2月 5日 午後9時ころ
2月 20日 午後8時ころ
3月 5日 午後7時ころ

～月のようす～

2月 5日 下弦 ①
2月 12日 新月 ②
2月 20日 上弦 ③
2月 27日 満月 ④

オリオン座

砂時計のような形をした星の並びがオリオン座です。左上の赤くて明るい星はベテルギウス、右下のやや青みがかった明るい星はリゲルで、ともに1等星よりも明るい星です。またこの星座には、オリオン大星雲（M42）と呼ばれる明るい星雲があります。



ふたご座

冬の大きな三角の上で、なかよく並んだ2つの明るい星がふたご座の目印です。やや黄色っぽい色の1等星が弟の星ポルックス、白い色の2等星が兄の星カストルで、色の違いがきれいです。カストルは望遠鏡を使うと白い星が2つ並んで見えます。



ぎょしゃ座

ぎょしゃとは馬車の運転手のことです。黄色の0等星カペラが目印で、このカペラをふくむ、少しつぶれた五角形の形に星をつなぎます。カペラには「小さなメス山羊」という意味があり、星座絵でも山羊をかかえた男の人が描かれています。



おおいぬ座

ひときわ明るく、きらきらと輝いている青白い星シリウスが目印です。シリウスは地球との距離が8.6光年と、広い宇宙の中では比較的近くにある恒星です。また明るさはおよそマイナス1.5等と、太陽以外の恒星の中で最も明るく見える星です。

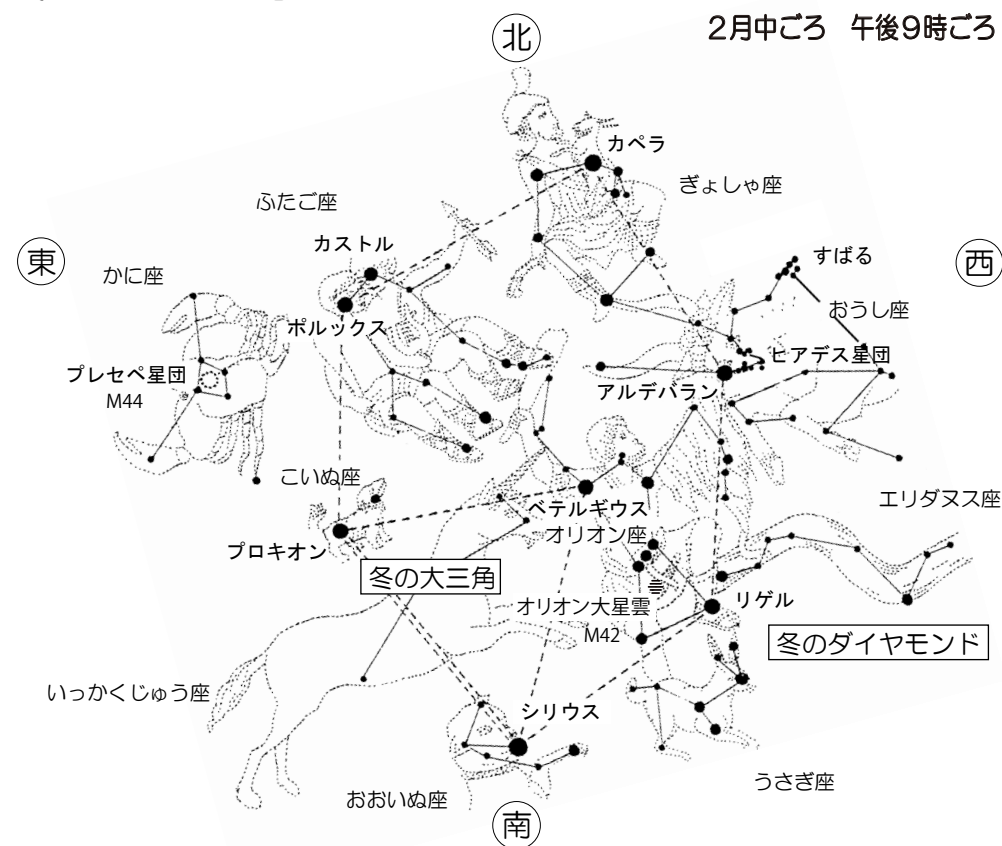


こいぬ座

冬の大きな三角を作る明るい星の一つ、プロキオンが目印です。プロキオンには「犬の前」という意味があり、東の空でシリウスの少し前に昇ってくることからつけられたそうです。こいぬ座とおいぬ座は、ともにオリオンの猟犬とも言われています。



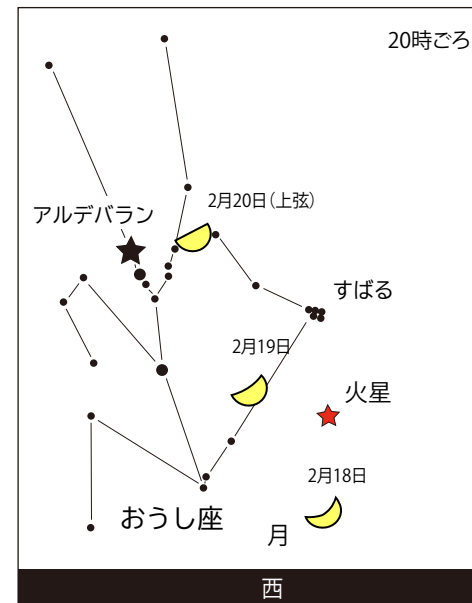
冬の星座の見つけかた



- 1 南の空に、砂時計の形をしたオリオン座を見つけます。
- 2 オリオン座の真ん中の3つ並んだ星（三つ星）を右上にのばして、おうし座のアルデバランを見つけます。
- 3 アルデバランの北に、カペラをふくむ五角形の形のぎよしゃ座を見つけます。
- 4 オリオン座の三つ星を左下にのばして、冬の星空で一番明るいシリウスを見つけます。オリオン座のベテルギウス、おおいぬ座のシリウス、こいぬ座のプロキオンで作る「冬の大三角」を見つけます。
- 5 ぎよしゃ座の東に、明るい星が2つ並んだふたご座を見つけます。
- 6 1等星以上の明るさのシリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン、リゲルをつないでできる大きな六角形が、「冬のダイヤモンド」です。

○火星に月が近づく

日が沈んで暗くなると、西の空の高い位置に火星を見ることができます。18日、19日には、火星の近くに月がいるので目印にして探してみてください。18日の月は火星の下に、19日は火星の左上に位置するようになります。翌日20日の月は上弦を迎えるためやや明るいのですが、月明かりに負けずに光る火星を探してみてください。



○月の地形が形作る「月面X」

月面は、クレーターや山脈などでとても凸凹しています。特に月の欠け際は太陽光で明るい部分と暗い部分（影）ができて、望遠鏡や双眼鏡で観察すると凸凹さがより際だって見えます。中には文字のような形に見えるものがあり、特に有名なのが「月面X」。太陽光の角度の関係で年に数回しか見えないのですが、2021年は好条件の日が6回もあります（2月19日、4月19日、6月17日、8月15日、10月13日、12月11日）。2月19日の17時40分前後、月面に注目！！

